

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	2170400499		
法人名	有限会社夢家族		
事業所名	グループホーム夢家族三ツ柳第一		
所在地	羽島市正木町三ツ柳字2丁野184番地		
自己評価作成日	平成29年11月1日	評価結果市町村受理日	平成30年1月30日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kai.gokensaku.nhi.w.go.jp/21/index.php?act=on_kouhyou_detai1_2017_022_kani=true&amp;gvsvoCd=2170400499-00&amp;PrEfCd=21&amp;Ver:si.onCd=022">http://www.kai.gokensaku.nhi.w.go.jp/21/index.php?act=on_kouhyou_detai1_2017_022_kani=true&amp;gvsvoCd=2170400499-00&amp;PrEfCd=21&amp;Ver:si.onCd=022</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	特定非営利活動法人 旅人とたいようの会		
所在地	岐阜県大垣市伝馬町110番地		
訪問調査日	平成29年12月22日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

「安心感」の理念、ホームの理念「笑顔で寄り添い心にゆとりを持ち温かい介護を目指す」に基づき信頼関係を大切にしている。職員の案で利用者との共有できるものはないだろうか考えたのが、絵本の朗読にたどり着きました。職員が読み聞かせをすると真剣な顔をして聞いています。91歳の女性利用者の方も皆さんの前で上手に絵本を読み上げている姿にとても心が和みます。今ではこれが日課となって楽しみにしています。平成29年6月から11月まで200冊以上になっています。まだまだこの先続くので大切にしたいです。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

市より新規利用者の相談があり、市の担当者や警察、保健所、医師と連携している。事業所の感謝祭や音楽療法など自治会の回覧板で案内してもらい多くの人に参加している。行事の後に地域の人と利用者と一緒にお茶を楽しみ顔なじみに関係となっている。地域の老人会の茶話会や認知症カフェに誘われて利用者と一緒に出掛けている。前任の区長や民生委員が事業所に立ち寄ることもある。利用者の希望を聞き初詣や買い物、喫茶店に出掛けたり、ボランティアの協力を得て職員、利用者と一緒に散歩に出掛けたりしている。職員間で話し合いながら、利用者が少しでも安心して生活出来るのが職員のやりがいとなっている事業所である。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「安心感」の理念に基づき提示しミーティング時スタッフ一同で音読。ホームの理念では「笑顔で寄り添い心にゆとりを持ち暖かい介護を目指す」を共に取り組んでいる	理念を具体化できるように話し合って毎年ユニットの目標を作っている。理念と目標を毎月のミーティングで唱和しみんなで話し合っている。職員は利用者が安心して笑顔で過ごせるように心掛けている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	区長様より地元の広報を届けて頂いたり、ホームの新聞で行事の日程の報告に取り組み交流している	老人会の茶話会や認知症カフェに出掛けて地域の人と交流している。事業所の行事を自治会の回覧板で案内し地域の人も参加している。行事の後に地域の人と一緒にお茶を楽しみ顔なじみの関係となっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	音楽療法、お祭り、運営推進会議などに案内状を作成し地域の方々と交流に取り組んでいる また、一年に一回「感謝祭」等も活かしている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	自治会長、区長、民生委員、福祉課、地域包括支援センター、利用者のご家族様より意見や助言をいただき日々の向上に活かしている	事業所の状況や取り組み内容、ヒヤリハットなど報告している。地域の代表者より認知症カフェやボランティアの紹介があり取り入れている。避難訓練や開催通知についてアドバイスを受けて話し合って改善している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市より、介護相談員の方が、月に1回【2名】訪問、文面や口頭で対応。福祉課の協力もありより良い関係を築くように取り組んでいる	管理者は入居の状況や問題点を市の担当者に相談している。市の担当者より入居の相談があり、警察、保健所、医師等と連携して受け入れている。介護相談員が月1回来訪し意見交換している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	転倒防止のためベットで柵をするときもあり床にマットレスを敷き常に見守りに心掛けている。マネージャー共にミーティングで話し合いケアに取り組んでいる。	事業所内で定期的に研修会を行うなど正しく理解できるように取り組んでいるが、家族に同意を得てミトンや4点柵を行っている。職員間で解除に向けて話し合っているが、同意書には拘束の期限など書かれておらず、定期的に同意を得ていない。	同意書に拘束解除の予定を記入し、定期的に職員間で話し合って、家族から同意を得るなど拘束が解除できるように取り組んで欲しい。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修会に参加。マネージャーと共に日々ケアの在り方、接し方を職員同士話し合い見守りや声掛けに努めている。		

グループホーム 夢家族・三ツ柳

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修に参加し関係者との話し合い等を活かしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	代表ケアマネージャー管理者がその都度対応、文面を読み丁寧にはかっている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議へ参加された時や面会時に意見や要望を聞き入れ取り組んでいる	家族が来訪した時に利用者の状況を説明し意見などを聞いている。年1回家族アンケートも行っている。家族より外出させて欲しいと要望があり、希望を聞き職員と一緒に出掛けたり、家族に協力を依頼したりしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1度のミーティング時、マネージャー、代表とともに機会を設け取り組んでいる	ユニット毎のミーティングに代表者や管理者が参加している。職員が話し易いようにランチミーティングを行うこともある。職員から絵本の読み聞かせをしたいと提案があり、今では利用者も一緒に読むようになった。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	月1度のミーティング時、マネージャー、代表、管理者、職員と共によりよい環境づくりの勉強会を行ったりして勤めている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修会の参加の機会に多くの職員が受けられるよう取り組んでいる		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	情報提供をしていただき向上できるよう取り組んでいる		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前に自宅や病院へケアマネージャーと共に訪問し、面談、家族や本人様の思いを聞き安心できるよう関係づくりに努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前に家族と面談し意見や要望等を記録したりより良い関係づくりに努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族が必要としている支援をケアマネージャーと共に見極め対応に努めている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	理念に基づき笑顔で寄り添い心にゆとりを持ち声掛けあいともにより良い関係づくりを築いている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	理念に基づき笑顔で本人と家族のきずなを大切にし面会時や電話、生活便り等で連絡し共に支えていくよう努めている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	日常生活の情報を伝え行事の写真や壁新聞を見て頂き心地よい関係が途切れないよう支援に努めている	馴染みの店に行って、自分で選んでパンを買いたいと言われたため一緒に出掛けている。知人が来訪した時に利用者と一緒に写真を撮って居室に飾ったり、再来訪をお願いしたりしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	声を掛け合い共にできることは大切にしながら工夫をし楽しい雰囲気づくりに努めている		

グループホーム 夢家族・三ツ柳

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要に応じ、支援や相談に努めている		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者本位の思い等を聞き困難な場合マネージャーと共に検討しその人らしい生活が送れるよう取り組んでいる	日常の会話時や入浴時、就寝前に思いや意向を聞いている。食べたい物や行きたい場所、会いたい人などゲームで聞くように工夫をしている。困難な方には表情やしぐさ、動作から思いを把握している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族の面会時に暮らし方を聞いたり日常の会話の中より聞き出しサービスに取り組んでいる		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の申し送り、介護記録、ミーティング等で健康状態が把握できるよう職員同士声掛け、見守りに努めている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアマネージャーと共にミーティング等で意見交換、ケアの在り方について介護計画を作成している	家族の希望や要望を書面や電話等で聞いている。計画作成担当者は職員に確認しながら定期的にモニタリングを行っている。本人や家族・医師の意見を反映させながら職員間で話し合って介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	職員同士で情報を共有しながら工夫している。現在H29年6月頃より職員による絵本の朗読または、利用者による朗読が活かされている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	要望に応じ対応している		

グループホーム 夢家族・三ツ柳

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町内の秋祭り、花火大会、感謝祭、職場体験(中学生)消防訓練、敬老会など支援に努めている		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	2週間に1回の主治医の往診や入所前のかかりつけ医の往診にも支援、24時間体制で努めている。また、月1回の通院も職員同伴で支援している	かかりつけ医の受診は家族が同行している。その場合は状態を書面で渡している。家族が困難な場合は職員が同行し結果を報告している。事業所と契約時に家族の希望で協力医に変更する人もいる。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週2回の看護師訪問以外24時間体制でも電話やメールなどで必要な受診や看護を受けられるように努めている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院関係者、主治医、管理者、家族、ケアマネージャー、スタッフと共に情報交換しすみやかに取り組んでいる		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	事業所でできることを十分に説明しながら共有し「終末期になった時の希望」を書面でいただいている(途中で変更もできる)	契約時に家族から終末期の意向を聞き、状態が変化した時はその都度意向を確認している。看護職員が重度化や終末期の対応を職員に説明している。家族と医師、事業所と話し合いながら意向に添えるように取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	研修会、救急訓練を受け発生時の備えに取り組んでいる		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災訓練、毎年2回実施。地震対応の訓練等運営推進会議のとき、意見交換し助言をいただいている	外部評価の意見から各居室に目印を付けて避難したことがわかるようにした。保存食や備品を備蓄している。年2回定期的に訓練を行っているが、夜間を想定した訓練が行われておらず地域の協力も得られていない。	運営推進会議等で話し合い、夜間を想定した訓練を行うことや地域の協力が得られるように取り組んで欲しい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者一人一人の性格や身体状況に合わせて、ノックやバスタオル、カーテンのれんをかけ各居室のドアに「使用中」のプラカードを下げ介助中の様子がわかるよう心掛けている	職員は介護を行う前に必ず声を掛けるように心掛けている。居室での介助中に他の職員が入ってこない様に「介助中」のカードを掲示して羞恥心に配慮している。職員の声が大きく、利用者を「～ちゃん」と呼んでいた。	利用者の尊厳が守れるように、声の大きさや名前の呼び方など職員間で話し合っている。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表現したり、自己決定できるように働きかけている	耳を傾け思いや希望ができるよう工夫し職員間で話し合いを心掛けるよう努めている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人一人のペースを大切に「今日は何しましょうか」と思いを聞き支援している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ヘアカット髪結い、季節に合った服装や買い物(職員同伴)へ出かけるなど支援に取り組んでいる		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	誕生日イベント季節に合った食事、お花見弁当(職員手作り)郷土料理おせち料理、ホームの畑の野菜の収穫、イチジクの収穫、職員共に支援している	ユニット毎に利用者の食べたい物を聞きながら献立を立てている。利用者は、土筆のはかま取りやフキのすじ取りなど手伝っている。畑で収穫したイチジクやジャガイモなど食卓に出して会話しながら食事を楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事、水分量は毎日個人記録に記入し一人一人の状態がわかるよう工夫し支援している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアや食事前後の水分補給を常に見守り、声掛けに心掛けている		

グループホーム 夢家族・三ツ柳

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個人記録の確認と定期的な声掛け。トイレ誘導、日中は紙パンツ使用しトイレ介助、夜間はおむつ使用と個々に合わせ支援を行っている	排泄パターンを把握しやすいように記録を工夫している。日中はトイレに誘導し、立位困難な人には2人で介助している。職員間で話し合っって布パンツに改善した人もいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便記録ノートを作成しシール【色分け】を貼り排泄の状況把握、下剤薬や食事の工夫、散歩、個々に合ったケアに取り組んでいる		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	冬は週2回、夏は週3回決まってはいるが、その時の体調に応じて個々に沿った支援をしている。入浴前はバイタル測定のチェックをしている	入浴時間や順番など出来るだけ利用者の希望が叶うように心掛けている。冬は脱衣場に暖房器具を置いている。歌を歌ったり会話したりしながらゆっくりと入浴出来るように取り組んでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個人記録の確認と申し送り帳の記録の把握、部屋の換気調節、寝付くまでのTVラジオでくつろげれるよう支援している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医師や訪問看護師の指示に基づき指導を受けている。また、ミーティングのとき薬の目的や副作用の勉強会も行い症状の確認に努めている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	歌を歌う人、本読み、ゲームをする人、野菜づくりや花の水やり収穫のお手伝い、気分転換に外でコーヒー飲んだり第2のホームの利用者さんともおしゃべりして支援に取り組んでいる		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	家族の方とも外食に楽しまれてる。散歩で地域の方とも挨拶していただき、お互い声掛けあいにも努めている	ボランティアの協力を得て職員、利用者と一緒に散歩に出掛けている。利用者の希望で買い物や初詣、喫茶店などに出掛けている。利用者の思いを家族に伝えて一緒に自宅や外食に出掛けている人もいる。	



グループホーム 夢家族・三ツ柳

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	要望があればともに買い物へ出かけたり代行支援している		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話や手紙の対応の支援をしている【毎週1, 2回の方や毎月2回の電話がある】		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	新聞コーナー、TV、ラジカセ雑誌ゲーム用道具、季節の花、手作りのポスター。浴室には温泉マーク、入り口にはのれん、夏にはすだれ、除湿器等居心地良く過ごせるよう工夫している	玄関やリビングに干し柿やクリスマスツリーなど季節が感じられるような作品を飾っている。リビングには外出時や行事の写真が飾られて会話のきっかけとなっている。職員は換気を心掛け、室温や湿度を調整し快適に過ごせるように気を付けている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングのソファや食卓テーブルに腰掛け会話したり、歌を歌ったり絵本を読んだりと思思い過ごせるよう工夫している		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ラジカセ、TV、整理タンス、布団、思い出の写真、傘、靴、マフラー、ひざ掛け、日々快適に過ごせるよう工夫している	テレビやラジカセ、ドライヤー、ギターなど使い慣れた物を持ち込まれ、家族からの手紙やひ孫の写真、利用者自身が描いた絵を飾るなど居心地良くなるよう工夫している。利用者の希望で畳を引いている部屋もある。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	食後の後片付け、食事前のテーブル拭き洗濯たたみ、掃除、工作、新聞たたみ、新聞読み自立した生活が送れるよう工夫している		

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	2170400499		
法人名	有限会社夢家族		
事業所名	グループホーム夢家族・三ツ柳第2ユニット		
所在地	羽島市正木町三ツ柳字2丁野184番地		
自己評価作成日	平成29年11月1日	評価結果市町村受理日	平成30年1月30日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kai.gokensaku.nhl.w.go.jp/21/i/ndex.php?act=on_kouhyou_detai1_2017_022_kani%20true&amp;ji_gvosyoCd=2170400499-00&amp;PrEfCd=21&amp;Ver:si onOd=022">http://www.kai.gokensaku.nhl.w.go.jp/21/i/ndex.php?act=on_kouhyou_detai1_2017_022_kani%20true&amp;ji_gvosyoCd=2170400499-00&amp;PrEfCd=21&amp;Ver:si onOd=022</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	特定非営利活動法人 旅人とたいようの会		
所在地	岐阜県大垣市伝馬町110番地		
訪問調査日	平成29年12月22日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

利用者さんに毎日笑顔で楽しんでいただけるように心がけ歌を歌ったり、散歩したり外気に触れて頂きたいと思っています  
できることはなるべく自分でやって頂けるよう声掛けをしています

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ミーティングで話し合いより良い介護のやり方を実践している		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の方とのつながりをよりよくするために区長さんからの行事のお知らせを頂きホームの出来事も報告をしている		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	音楽療法、感謝祭、お祭り、などに参加して頂いています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	区長、民生委員、職員、利用者さんの家族の方と共に意見交換し、サービスの向上に活かせるように取り組んでいる		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	月1回介護相談員の方に来ていただいています。利用者さんと会話をしてくださっています		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	毎月ミーティングで話し合い職員一人一人がより良い介護ができるよう考えている		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	ケアマネージャーと一緒に研修。ケア、接し方、見守りについて話し合い職員同士連携し防止に努めている		

グループホーム 夢家族・三ツ柳

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修に参加し個々の必要性を話し合っている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	代表、ケアマネージャー、管理者が対応。文書を読み上げ理解納得を図っている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議の参加時や電話、面会時、意見や要望を聞き入れ取り組んでいる		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回のミーティングで話し合った課題を現場で活かしている		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	一人一人研修し面談し各自が向上心をもって働けるよう配慮している		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修や講習参加への声掛けを重視している		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者の声掛けで行事に参加し2か月毎にほかのグループホームへの訪問も受け入れている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の要望や意見を聞き時間をかけながら安心できるようにいい関係づくりに努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の要望や意見を聞き電話などで対応にいい関係づくりに努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	日常性カス支援を見極め本人と家族が安心して頂けるよう対応に努めている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	理念に基づき常に笑顔で接しより良い関係づくりに努めている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人と家族のつながりを大切にしながら面会時や電話連絡等で支えていくよう努めている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	施設内の情報を伝え再度足を運んでいただけるよう支援に努めている		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員が共に支えあえるように工夫しよい雰囲気づくりに努めている		

グループホーム 夢家族・三ツ柳

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要に応じて相談や支援に努めている		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	訴え、想い、要望に目を向け家族に連絡し意見を聞きホームでできることは共に希望に添えるようつとめている		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	調査や本人とも話を聞き、また、家族の面会時に暮らし方を聞きサービス向上に活かしている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の記録、申し送り、バイタル、声掛け等現状の把握に努めている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	施設長、ケアマネージャー、主任職員全員でミーティング等で意見交換し課題を検討、記録し現状に応じ作成している		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録の確認、体調の様子を職員間で情報交換しながらケアマネージャー共に見直しに活かしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	買い物、散歩、ドライブなどその都度交換にとりくんでいる。		

グループホーム 夢家族・三ツ柳

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町内の秋祭り、敬老会、消防訓練、花火大会、職場体験など支援に努めている		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	2週間に1度主治医の往診。24時間体制で支援に努めている		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	電話、メールなどで24時間体制で連携して受診や看護を受けられるよう努めている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院関係者と情報交換し家族ケアマネージャー、スタッフ速やかに連携できるよう取り組んでいる		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に話し合いをし共に支援に取り組んでいる。終末期になった時の要望を書面でいただいている		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	外部研修、ホームの研修救急訓練を定期的に行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の防災訓練を運営推進会議を兼ねて家族の方に参加して頂けるようにしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者一人一人の性格や身体状況に合わせた対応を職員ができるよう心掛けている		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	外出、散歩、外食など希望者だけでなく全員出かけるようにしている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日利用者の体調、気分も考えて一人一人のペースを大切にしている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者の希望に応じて散髪をしている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	誕生日にはその人の好きなものを聞いている		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事、水分量な毎日把握し、介助が必要であればしている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアの指導を受け実行している		



グループホーム 夢家族・三ツ柳

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄を把握し必要時には誘導見守り介助を行い自立に向けた介助をしている		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便のチェックをし薬の調節を行っている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴は決まっている		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個人別に合わせた休憩時間を作って夜は安眠できるように支援している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	把握に努め医師、看護師と相談し連携している		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	散歩や外出などして役割や嗜好品等の支援をしている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	その日の希望に沿って散歩に行ったりしている		

グループホーム 夢家族・三ツ柳

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を持っている利用者さんはいません		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話、手紙等できる利用者さんはいません		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	広間にはソファを置きゆったりとしてテレビを見て頂きます		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合った利用者さん同士広間で話をされています		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族写真を飾っています		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全を考えトイレ、お風呂には手すりが付けてありできるだけ本人の能力を使う機会を持っている		